

# OB会通信

2010年度 第1号  
大阪府立大学陸上競技部

拝啓

初夏の候、少しずつ暑くなり始め、夏に向けて各パート、練習に活気が見え始めています。  
OB・OGの皆様はいかがお過ごしでしょうか。さて、この度は大阪インカレ、三大戦、関西インカレについて報告させていただきます。

敬具



# 目次

## 1. 主将あいさつ

## 2. 主要試合結果報告

第58回大阪学生陸上競技対校選手権大会

第55回大阪三大学対校陸上競技大会

第87回関西学生陸上競技対校選手権大会

## 3. その他の試合の結果

## 4. 今後の目標と反省

# 1.主将あいさつ

OB 通信で始めて接点を持つことになる OB・OG さんもいらっしゃると思うので、この場を借りてあいさつをさせていただきます。初めまして、今季の大阪府立大学陸上競技部の主将を務めさせて頂いている阪口知己です。今年一年間どうぞよろしくお願いいたします。

さて、この2010年度第一号の OB 通信では例年同様に大阪インカレ、大阪三大学対校戦、関西インカレを中心にご報告させていただきます。これらの大会に至るまでは冬季練習や春合宿を乗り越えてきました。今年の春合宿は3月3日～6日まで高知県春野にて例年同様、大阪市立大学と和歌山大学の三大学合同で実施しました。最終日に数名の部員が食中毒になりつつも、全体としては有意義な4日間でありました。

4月初めの大阪インカレではいきなり自己ベストを出した選手もいましたが、記録が低調な選手もいました。その後の大阪三大学対校戦では400mにて大継(3)が府大新記録を出し、4×200mRでは大阪大学を抑えて1位をとるなど調子が上向いてきました。男子対校得点は1位大阪大学に負け2位ではありましたが、4点差での惜敗でしたので「来年こそは優勝」といった意識が部内全体に感じとれました。また、今年から女子対校が新設され、女子部員も刺激を受けていました。

関西インカレについては冬季練習初めに各パート長に点数目標を設定させ、「点数をとる」事を目標にしてきました。そういったことや、強力な新入生の加入により関西インカレ2部の対校得点6位(50.5点)になることができました。この結果は部員全員が陸上部を盛り上げてくれた結果であり、非常に感謝しています。

つい先日、新入生歓迎会が行われ、天候に惑わされながらも2回生を中心に非常に良く頑張ってくれました。また、これからはびわこ大学駅伝予選会といった重要な試合も控えています。「日々成長」を目標にしながら、府大陸上部をより一層盛り上げられるよう努力したいと思います。これからも府大陸上部の発展を見守ってくださるよう、どうぞよろしくお願いいたします。

主将 阪口知己 (3)

## 2. 主要試合結果報告

☆は自己ベスト、★は大学ベスト

### 第58回大阪学生陸上競技対校選手権大会

4月5日, 6日 万博記念競技場

● グランドコンディション

4月5日 曇りのち晴れ 19.3°C

4月6日 晴れ 21.9°C

#### 男子100m

穂西 俊弥 (3)	予	11" 87	(-1.7m)
阪口 知己 (3)	予	11" 96	(-1.3m)
中田 洸樹 (3)	予	11" 51	(-1.5m)
	準	11" 69	(-2.7m)

この大会前に追い参ながらベストを出し、波に乗る阪口(3)、関カレ標準突破と10秒台突破に期待がかかる中田(3)・穂西(3)が出場。穂西は得意のスタートで勢いよく飛び出したものの、中盤からなかなか伸びずにゴールとなった。ケガによる調整不足感があったので、今後に期待したい。阪口は記録こそ伸びなかったものの前日の200mと合わせて課題を発見したようだった。記録自体は順調に伸びているので今シーズンの爆発が予想される。中田は予選では後半2着を確定させたあたりから流して余裕の準決勝進出。準決勝で期待がかかったが思ったように体は動かず、また強い向かい風も影響し記録は伸びなかった。感覚は悪くないようなので、短距離パート長に期待はかかる。新ルール適用(フライング1発失格)にまだ不慣れだったのではないかと考えられる。

文責 中野智典(2)

## **男子200m**

阪口 知己(3) 予 23" 86 (+0.5m)

谷口 裕幸(4) 予 22" 71 (+1.2m)

準 22" 54 (+0.6m)

中野 智典(2) 予 22" 65 (-0.2m)

準 22" 84 (+0.6m)

阪口(3)のスタートは良く、前半100mでスピードにのる。しかし後半でのホームストレートでスピードを維持できず失速した。200mを走りきるのには体力不足だが、100mでは期待できそうだ。谷口(4)の組では、今年から導入されたフライング1発失格により失格になった者もいたが、冷静に自分のスタートができたようだ。余力は残っていたようだが、残念ながら決勝には届かなかった。中野(2)はスタートの調子が悪かったが、後半の伸びにより準決勝に残った。しかし準決勝では疲労から後半の伸びもなく、前に追いつけなかった。これからの期待したい。

文責 弓場大介(2)

## **男子400m**

大継 伸和(3) 予 50" 07 決 49" 72☆ 6位入賞

中野 智典(2) 予 52" 96

弓場 大介(2) 予 54" 19☆

中野(2)曰く、シーズン最初の大きな大会ということもあり、記録はでないだろうと言っていたが、前半は良い走りであった。しかし、後半は走りに疲れがみられ、ラストが苦しいレースとなってしまった。大継(3)は、予選では、いつものように長いストライドを生かし後半追い上げ、見事に決勝に残ることができた。決勝では、周りのスピードに後押しされ、最後まで粘ることができ、自己ベスト更新した。調子もよく、関カレへの期待も高まるレースであった。弓場(2)は、前回のレースで体力向上という課題を見つけ、この冬季練習では、体力向上をはかり、練習に励んできた。その甲斐あって、今レースでは、ラストまでバテることなくしっかりと走りきることができ、自己ベストも更新した。

文責 西村実希子(2)

## **男子800m**

武田 大輝 (3) 予 2' 00" 15 ☆

木村 和史 (4) 予 2' 01" 02

野々口 諒一 (4) 予 2' 00" 79

武田 (3) は1周目を58秒台で通過し、そこからスピードを上げていったが、その後バックストレート中盤で失速。それでも、ベストを2秒程更新し、1分台も目前となり、今後に期待がかかる。木村 (4) はブランクが長く、順位・タイムともに本来の実力からは程遠い結果となってしまった。関カレでは復活した走りを見せてほしい。野々口 (4) は前半先頭集団で走るも、後半の先頭のスパートに着いて行くことができず、予選通過・ベスト更新とはならなかった。

文責 甲木孝弘 (2)

## **男子1500m**

赤坂 柁典 (2) 4' 29" 42

甲木 孝弘 (2) 4' 06" 61

野々口 諒一 (4) 4' 08" 58

赤坂 (2) は冷静に走り始め中盤何人か拾いながらラストまで粘ったというレース展開であった。もう少し積極的に走って欲しかったが安定した走りであった。野々口 (4) と甲木 (2) 初め集団がなかなかばらけず大きな集団の中2人とも走りにくそうであったがそのまま着いていき甲木が順位を上げに前へ出てそれに野々口が粘ってついていく形となった。両選手ともに粘りある走りであった。

文責 山下翔平 (2)

## **男子5000m**

北川 拓哉 (3) 15' 58" 24

甲木 孝弘 (2) 16' 16" 67

山下 翔平 (2) 17' 33" 44

風が強く吹く中行われたレースでは、1組で甲木 (2) が序盤から積極的なレース展開で先頭に立つ。しかし、同日の1500mの影響からか4000m辺りでペースが落ち、先頭の座を譲ってのゴールとなった。一方、山下 (2) は他の選手の後方に位置取りしたが、2000m辺りで飛び出し、その後は独走し、そのままのゴールとなった。2組の北川 (3) は序盤、ハイペース集団の最後方でレースを展開するが、序盤のハイペースが響き3000m辺りから先頭のペースに着いていけず集団から離されてのゴールとなった。

文責 赤坂柁典 (2)

## **男子10000m**

藤原 英司 (4) 34' 56" 50 (16着)

藤原 (4) は序盤から市大と抜きつ抜かれつの展開であった。6000m過ぎから表情がかなり苦しそうになり、1キロごとのラップもガクッと落ちた。なんとか35分は切ったものの、ベスト更新とはならなかった。琵琶湖駅伝に出るためには何としてでも結果を出さなければならない種目だけに、今後の記録に期待したい。

文責 甲木孝弘 (2)

## **男子400mH**

大継 伸和 (3) 予 54" 88

決 54" 99

予選ではバックストレートで足が合わず、ベストは出なかったが決勝に残ることが出来た。しかし、決勝でも足が合わず、ハードルを越える際、完全に上に跳んでしまった。タイムも予選より遅くなってしまった。充分力のある選手なので、技術面を向上させることでまだまだタイムが伸びると期待できる。

文責 小池徳子 (2)

## **男子3000mSC**

北川 拓哉 (3) 10' 06" 26

初めの1000m、北川 (3) は積極的に前につきいつもよりペースの早い入りとなった。いい結果が期待されたが、2000mまでは粘るもラスト1000mはペースも落ち苦しい走りとなった。今後の三大戦や関カレでのリベンジを期待したい。

文責 山下翔平 (2)

## **男子4×100mR**

大阪府立大学 (穂西 (3) - 中田 (3) - 中野 (2) - 山中 (2)) 予 42" 48

決 DSQ

予選では、1走の穂西 (3) が好調なスタートで攻めていき、2走の中田 (3) でスピードを上げていった。3走の中野 (2) までバトンが渡ると前との差が縮まり、4走の山中 (2) が前に食らいついてゆき、決勝に進出した。しかし、決勝では3走と4走との間でバトンが上手く渡らず、惜しくもDSQとなってしまった。

文責 弓場大介 (2)

## **男子4×400mR**

大阪府立大学（中野（2）－大継（3）－弓場（2）－武田（3））3' 26" 77

1走の中野（2）が好スタートをきって3位でつないだ。しかし、2走の大継（3）、3走の弓場（2）ともに順位をあげることはできなかった。4走は中距離からの助っ人として武田（3）が走った。順位はあげることはできなかったが、最後までバテることなく走り切れた。

文責 山中敬雄（2）

## **男子走高跳**

木村 慎太郎（2） 1 m 9 2

渡部 翔太（2） 1 m 8 0

天候もよく好記録が期待される試合だった。木村（2）は1 m 9 2の大学ベストを跳んだが、まだ納得のいく結果ではなかったようだ。渡部（2）はベストに近い1 m 8 0を跳んだ。シーズン初戦からなかなか良い発進をした。

文責 山中敬雄（2）

## **男子走幅跳**

山中 敬雄（2） 6 m 5 8（+0. 0 m）

踏切足がなかなか定まらず、1本目しか記録を残せない試合となった。冬季練習によりスピードが上がって足が合わなくなっていたので、今後は踏切練習をしていけばいい記録が残せるはずなので今後に期待したい。

文責 渡部翔太（2）

## **男子三段跳**

山中 敬雄（2） 1 4 m 3 8（+3. 3 m）

追い風が強くて足が合わせにくかった。だが、3本目はばっちり跳ぶことができこの日のベストとなったが、焦りから跳躍が大きくなっていた。

文責 渡部翔太（2）



## 男子円盤投

西野 駿作 (2) 28m61

砲丸投げが終わり、間もなく円盤投げが始まった。砲丸投げの練習で精一杯で、あまり円盤を投げていなかったせいか、思うよう記録は伸びず28m61という結果になってしまった。しかし、本人はとりあえず記録が残せて安心していたようだ。

文責 西野駿作 (2)

## 男子砲丸投

西野 駿作 (2) 13m37☆

1投目から安定して記録を伸ばしていき5投目まで1位であった。しかし最終投擲で抜かれそのあと西野(2)もベストを出したが惜しくも及ばず2位という結果となった。だが安定して記録を出し、自己ベストも出したので冬季練習の成果が出ているようだ。

文責 山下翔平 (2)

## 十種競技

二反田 松平 (M1) 5295点☆

100m : 11"62 (728)

風、天気ともに好条件であったが、あまり良いタイムはでなかったようだ。

走幅跳 : 5m92 (569)

風はなく天候も曇りと条件は悪くなかったが、結果は5m台と6mを超すジャンプは見られなかった。

砲丸投 : 9m34 (446)

1投目に9m34を投げたが、2、3投目では記録は伸びなかった。しかし、本人としてはまずまずの結果だったようだ。

走高跳 : 1m65 (504)

65は余裕で跳べていたが70になると高さを意識してしまったせいか、助走が力み、バーを落としてしまった。高さをあまり意識しなかったら跳べたはずなので今後期待できる。

400m : 54"39 (624)

十種競技1日目最後の種目。本人も懸念していた100mがまずまずの記録だったため、同じ短距離種目である400mにも期待がかかる。入りの200mは25秒台中盤とまずまずの入り。ラスト50mは少し失速してしまったが、自己ベストに近い54"39でゴール。1日目をまずまずの点数で終えた。

**110mH** : 17" 22 (602)

前半から積極的な走りを見せたが、思うようにハードルを越えることができず、スピードに乗りきることができなかった。本人の持ちタイムからしても、悔しい結果となった。

**円盤投** : 29m31 (451) ☆

2投目に自己ベストとなる29m31を記録した。

**棒高跳** : 3m00 (357) ☆

低い高さから始めて確実に跳んでいった。そのため3mは余裕をもって跳んでいたが、握力が限界になりポールをしっかりと握れず少しポールからずれて3m10は跳べなかった。

**やり投げ** : 41m63 (466)

ベスト記録には及ばなかったものの、41m63と8位に入るいい記録を残した。

**1500m** : 5' 01" 98 (548)

十種競技の最終種目ということで、疲労の蓄積がある中でのレースとなった。序盤は集団の後方でレースを展開した。中盤から終盤にかけて先頭集団から離されたものの粘りのある走り続け、5分01秒でのゴールとなった。

## **女子800m**

小川 瑠美 (3) 予 2' 26" 82 ☆

関岡 由希子 (2) 予 2' 34" 91

1組に出場した小川 (3) は、セパレートからオープンにコースが変わる際、前と横を他の選手に囲われてしまう。しかし、200mから300mのところかわした後、全くペースが落ちることなく、1周目、2周目のラップが共に73秒で見事自己ベストを更新した。2組に出場した関岡 (2) は足に不安があったものの、1周目は先の小川と変わらないペースで入った。ところが後半苦しくなり、ペースダウン。ラスト100mで前の1人をおかわすも自己ベストには届かなかった。しかし、今回の試合で良い手応えを感じたようである。これからもお互い切磋琢磨して競技力を向上してもらいたい。

文責 小池徳子 (2)

## 女子5000m

大石 真由香 (3) 18' 55" 78

小池 徳子 (2) 20' 37" 92☆

西村 実希子 (2) 19' 51" 77

女子5000mでは大石(3)、小池(2)、西村(2)の3人が出場した。3人ともスタートから集団につくことなく、各々のペースで走っていた。大石は途中のラップタイムが落ち、持ち直すこともあったものの本人も満足とは言えないレースとなった。小池は学連記録会に続いて自己ベストを更新した。しかしタイムには満足しておらず、今回のレースを通して課題を見つけることができた。西村は序盤からのペースを保ち、安定した走りを見せた。大石、西村ともにケガのため十分な練習ができていなかった状態のシーズンインであり、これからの活躍に期待したい。

文責 関岡由希子(2)

《応援・競技参加にしてくださったOB・OGの皆様》

雲財さん、二反田さん

お忙しい中ありがとうございました。

# 大阪三大学対校陸上競技大会

4月17日 金岡競技場

## 男子100m

大会記録 10" 95

(-1.3m)

- |               |        |                |        |
|---------------|--------|----------------|--------|
| 1. 寺嶋 高志 (市大) | 11" 18 | 2. 大家 賢志郎 (阪大) | 11" 25 |
| 3. 谷口 裕幸 (府大) | 11" 34 | 4. 長野 良哉 (阪大)  | 11" 40 |
| 5. 穂西 俊弥 (府大) | 11" 65 | 6. 崎本 雅人 (市大)  | 11" 66 |

得点 府大6点 阪大8点 市大7点

昨年同様ハイレベルな戦いが予想された男子100m。少し向かい風が吹く中でのスタートとなった。中盤までは混戦模様だったが、中盤から少しずつ穂西(2)が離される展開となる。谷口(3)は最後まで粘るも3位でゴール。向かい風と、フライング1発失格の新ルール適用と相まって昨年ほど記録は伸びなかった。

文責 中野智典(2)

## 男子400m

大会記録 48" 39

- |                |        |      |               |        |
|----------------|--------|------|---------------|--------|
| 1. 大継 伸和 (府大)  | 48" 87 | ☆府大新 | 2. 寺嶋 高志 (市大) | 49" 84 |
| 3. 岡村 健太郎 (阪大) | 49" 98 |      | 4. 亀坂 晃司 (市大) | 50" 04 |
| 5. 中野 智典 (府大)  | 50" 50 |      | 6. 小間 洋和 (阪大) | 50" 85 |

府大 8点 阪大 5点 市大 8点

シーズン序盤のこの三大戦で、大継(3)中野(2)ともにのぼり調子で期待されていたが市大阪大ともに走力のある選手が出てきてレベルの高い戦いとなった。序盤で大継は他の選手から少し抜け、そして最後までペースが落ちることなく1着をとった理想的な走りであった。この記録は自己ベストでもあり、かつ府大新でもあった。中野も粘りある走りをして、大学ベストを出し2点をとった。両選手ともに冬季の走り込みが実った形となり、今シーズンさらなる躍進が期待される。

文責 弓場大介(2)

## 男子1500m

大会記録 4' 02" 76

- |               |           |                |           |
|---------------|-----------|----------------|-----------|
| 1. 山田 佳祐 (阪大) | 4' 06" 02 | 2. 松井 健太 (阪大)  | 4' 07" 00 |
| 3. 甲木 孝弘 (府大) | 4' 07" 17 | 4. 平野 新太郎 (市大) | 4' 07" 67 |
| 5. 小川 晃一 (市大) | 4' 08" 41 | 6. 野々口 諒一 (府大) | 4' 08" 94 |

府大 5点 阪大 11点 市大 5点

甲木(2)が先頭に立ち、レースが展開された。甲木は周りのスローペースに惑わされつつも先頭をまもり、あまり変動なくラスト1周をむかえる。鐘が鳴り、野々口(4)が前に出てきたがそれに続いて阪大の二人も迫ってくる。最後の直線で抜かれてしまい、甲木3位、野々口6位でゴールした。

文責 関岡由希子(2)

## 男子5000m

大会記録 15' 19" 40

- |               |            |     |               |            |     |
|---------------|------------|-----|---------------|------------|-----|
| 1. 酒井 健 (阪大)  | 14' 55" 06 | NGR | 2. 近田 昌志 (市大) | 15' 15" 05 | NGR |
| 3. 西濱 大祐 (府大) | 15' 24" 31 |     | 4. 西村 太志 (阪大) | 15' 26" 59 |     |
| 5. 北川 拓哉 (府大) | 15' 30" 48 |     | 6. 黒野 佳秀 (市大) | 15' 58" 06 |     |

大阪府立大 6点 大阪市立大 6点 大阪大 9点

スタートしてからしばらくは集団で走っていたが、その集団は1600m付近で3人ずつに分かれ、西濱(M1)が前の集団に、北川(3)が後ろの集団に付く形となった。北川はそのまま前を走る阪大の西村の後ろにピタッと付いていた。2600mを越えたところで、先頭集団から西濱が離れ、4200mのところまで北川の前を走っていた阪大の西村に抜かされ、それまでその後ろに付いていた北川が離れ始めた。一時は阪大の西村に抜かされた西濱だが、ラスト100mで抜き返した。今年は5000mの選手のレベルが上がっており、1位の酒井と2位の近田は大会新記録を出した。先頭とのレベルの差を痛感するレースとなった。

文責 小池徳子(2)

## 男子4×200mR

大会記録 1' 28" 53

1. 大阪府立大学 (谷口 (4) —中野 (2) —大継 (3) —山中 (2)) 1' 29" 14
2. 大阪大学 (貝出—有村—信時—大家) 1' 29" 44
3. 大阪市立大学 (亀坂—平岡—寺嶋—今井) 1' 30" 12

府大 6点 市大 0点 阪大 3点

1走の谷口(4)は抜群のスタートで他校との差を広げ2走の中野(2)へバトンをつなぐ。2走の中野と3走の大継(3)は差を詰められながらもトップでアンカーの山中(2)へ。山中は抜群のコース取りで他校の猛追をかわしトップでゴールし、貴重な6点を獲得した。

文責 赤坂柁典(2)

## 男子走高跳

大会記録 2m16

1. 滝川 憲 (阪大) 2m00
2. 木村 慎太郎 (府大) 1m95
3. 吉永 光宏 (阪大) 1m85
4. 渡部 翔太 (府大) 1m80
5. 浅井 卓也 (市大) 1m65
6. 北川 峻吾 (市大) 1m60

府大 8点 阪大 10点 市大 3点

渡部(2)は170から始め、助走が安定せず、危ない場面もあったものの、180まではクリアした。しかし185では踏み切りのミスが目立ち、跳ぶことができなかった。木村(2)は180からと余裕を持ちながら始め、190までを無難にクリアした。195を3回目でクリアしたが、2mを跳ぶ時にスパイクが破れるというアクシデントが発生し、惜しくも跳べなかった。万全のコンディションなら跳べたと思われるだけに残念であった。

文責 弓場大介(2)



(高跳びを跳ぶ木村慎太郎 (2))

## **男子走幅跳**

### **大会記録 7 m 1 8**

- |                                  |                       |
|----------------------------------|-----------------------|
| 1. 今井 俊彰 (市大) 7 m 1 8 <b>EGR</b> | 2. 山中 敬雄 (府大) 6 m 8 4 |
| 3. 長末 慎之介 (市大) 6 m 7 3           | 4. 中野 翔 (阪大) 6 m 4 2  |
| 5. 新田 真也 (府大) 6 m 2 2            | 6. 福井 康平 (阪大) 5 m 4 1 |

### **得点 府大7点 阪大4点 市大10点**

昨年は7mを超える記録が連発されるなど、近年まれにみるハイレベルな戦いであったが今年も昨年同様のハイレベルな戦いが予想された。新田(4)は安定して6m20付近を跳ぶが、なかなかそれを超える大ジャンプは生まれなかった。しかし、悪いなりに記録をまとめてきたのはさすがといえる。山中(2)は6本目に6m84を跳び、トップに立ったが市大の今井に大会タイとなる7m18を跳ばれてしまい惜しくも2位となってしまった。それでも記録自体は好記録をマークし昨年からの成長をうかがわせた。

文責 中野智典 (2)

## 男子三段跳

### 大会記録 15m32

1. 今井 俊彰 (市大) 15m25
2. 山中 敬雄 (府大) 14m06
3. 島田 勇毅 (阪大) 14m00
4. 出口 政孝 (阪大) 13m87
5. 新田 真也 (府大) 13m11
6. 吉田 達彦 (市大) 12m85

### 府大 7点 阪大 7点 市大 7点

府大からは新田(4)、山中(2)がポイントとして出場した。やはり今季始まって間もないからなのか2人とも板をしっかり踏むことができないケースが多く見られた。そんな中で新田の最も良い跳躍は2本目にでた。踏み切りは一足ほど遠かったが助走は滑らかに走れ、13m11と13m台に届くことができた。山中のこの日のベストは5本目に出た。14m06と14m台を見ることができた。新田は5位、山中は2位という結果になった。

文責 木村慎太郎(2)

## 男子砲丸投

### 大会記録 14m10

1. 西野 駿作 (府大) 13m06
2. 前田 拓樹 (阪大) 11m14
3. 芦田 尚郁実 (市大) 10m62
4. 二反田 松平 (府大) 10m12
5. 平岡 成彦 (市大) 8m55

### 府大 9点 阪大 5点 市大 6点

西野(2)は1投目から12m台の投擲で、6投目にはベストではないものの13m06と他を寄せ付けなかった。二反田(M1)は6投目に10mを超える投擲を見せたが、3位の市大には及ばず4位となった。

文責 甲木孝弘(2)



## 男子円盤投

### 大会記録 40m02

- |                |       |                |       |
|----------------|-------|----------------|-------|
| 1. 鶴崎 晋也 (阪大)  | 31m65 | 2. 二反田 松平 (府大) | 31m14 |
| 3. 武藤 将大 (阪大)  | 29m76 | 4. 芦田 尚郁実 (市大) | 28m02 |
| 5. 平野 新太郎 (市大) | 24m15 | 6. 西野 駿作 (府大)  | 24m05 |

### 府大 6点 阪大 10点 市大 5点

二反田 (M1) は3投目に30m越えの会心の投擲を見せ雄叫びを上げた。しかし残りの投擲はそれを超えられず、惜しくも阪大の1回生の記録に届かず、悔しそうであった。西野 (2) は不慣れな円盤では4投目まで思った投擲が出来ず、ファールが続いた。その後の投擲でも思ったような記録が出ず、5位の市大の記録に届かず悔しがっていた。

文責 弓場大介(2)

## 男子やり投げ

### 大会記録 62m84

- |               |       |                |       |
|---------------|-------|----------------|-------|
| 1. 前田 拓樹 (阪大) | 53m16 | 2. 二反田 松平 (府大) | 43m65 |
| 3. 長野 真悟 (市大) | 41m33 | 4. 今井 俊彰 (市大)  | 41m02 |
| 5. 新田 真也 (府大) | 40m44 | 6. 武藤 将大 (阪大)  | 23m44 |

### 府大 7点 阪大 7点 市大 7点

朝一番に行われるということもありアップが難しいこともあったのだが、二反田 (M1) が43m65、就職活動の関係であまり練習できなかった新田 (4) も40m44とどちらも存分に力を発揮しここ一番の勝負強さを見せてくれた。

文責 西野駿作(2)

## 女子100m

(-0.8m)

- |                |        |                |       |
|----------------|--------|----------------|-------|
| 1. 森山 美智子 (市大) | 13"16  | 2. 澤村 真由子 (阪大) | 13"21 |
| 3. 絹岡 なずな (阪大) | 13"35  | 4. 石貫 裕子 (市大)  | 13"54 |
| 5. 小川 瑠美 (府大)  | 14"83☆ | 6. 関岡 由希子 (市大) | DNS   |

### 得点 府大2点 阪大9点 市大9点

今年から女子の部も対校戦が実施されることになった。女子100mは中距離の小川 (3) が出場。他大学の短距離専門選手と比べると少し離されてしまったが、後半粘りの走りで自己ベストを更新した。中距離の最後のスパートにもつながる良い結果になったといえる。

文責 中野智典(2)

## 女子800m

- |          |      |           |          |      |           |
|----------|------|-----------|----------|------|-----------|
| 1.歌津 歩   | (阪大) | 2' 27" 70 | 2.小川 瑠美  | (府大) | 2' 28" 81 |
| 3.石貫 裕子  | (市大) | 2' 31" 82 | 4.関岡 由希子 | (府大) | 2' 35" 60 |
| 5.澄川 美穂子 | (阪大) | 2' 41" 89 | 6.伊藤 愛慧  | (市大) | 2' 49" 28 |

府大 4点 阪大 4点 市大 2点

スタート直後は、小川(3)は2位、関岡(2)3位と良い位置につくことができたが、そのまま前の選手を抜くことはできなかった。しかし、とくに小川は、後半も粘りを見せ、中距離女子の意地を見せた。関岡は、前半で力を出し過ぎたために、後半失速し、市大の選手に抜かれてしまった。2人とも、しっかり点数を稼いで、府大に貢献することができた。

文責 西村実希子(2)



(一番左、関岡(2) 一番右、小川(3))

## 女子3000m

1. 安川 由紀 (阪大) 10' 07" 14
2. 大石 真由香 (府大) 10' 59" 51
3. 生川 幸奈 (阪大) 11' 20" 53
4. 西村 実希子 (府大) 11' 43" 15
5. 平野 真由子 (市大) 11' 57" 91
6. 伊藤 愛慧 (市大) 12' 31" 96

府大 8点 阪大 10点 市大 3点

前半から阪大の選手が先頭を走っており、大石(3)と西村(2)は食らいついていくが、徐々に離されてしまった。大石はペースをつかめなかったのか、自己ベストには届かなかった。西村は阪大の選手と競りながら走っていたが、ラスト3周で抜かれ、離されてしまった。

文責 弓場大介(2)

## 女子4×200mR

- 1、大阪大学 (絹岡—澤村—牛山—川守田) 1' 46" 92
- 2、大阪市立大学 (森山—石貫—間所—森本) 1' 52" 82
- 3、大阪府立大学 (小川(3)—関岡(2)—西村(2)—大石(3)) 2' 12" 27

府大 0点 市大 3点 阪大 6点

1走の小川(3)は相手のスピードに着いていけず、3番手で関岡(2)へバトンを繋ぐ。関岡は前との差があったが、懸命に走り西村(2)へ繋ぐ。西村は後半ペース落ちたが懸命に前を追う。アンカーの大石(3)も懸命に走ったがポイントを獲得できなかった。

文責 赤坂柁典(2)

## 総合成績

### 男子対校

	大阪府立大学	大阪大学	大阪市立大学
トラック合計	31	36	26
トラック順位	2位	1位	3位
フィールド合計	44	43	38
フィールド順位	1位	2位	3位
総合得点	75	79	64
総合順位	2位	1位	3位

### 女子対校

	大阪府立大学	大阪大学	大阪市立大学
総合得点	8	31	17
総合順位	3位	1位	2位

### オープンの部

100m	内賀嶋 陽史 (1)	1 1" 5 5 (+ 1. 2 m)
	山中 敬雄 (2)	1 1" 3 5 (+ 0. 9 m)
	二反田 松平 (M1)	1 1" 7 5 (+ 0. 9 m)
	渡部 翔太 (2)	1 1" 5 1 (+ 3. 2 m)
	弓場 大介 (2)	1 2" 1 3 (+ 3. 2 m)
	阪口 知己 (3)	1 1" 8 6 (- 1. 6 m)
	伊吹 惇 (3)	1 2" 2 9 (- 1. 0 m)
	木村 和史 (4)	1 2" 6 1 (- 1. 0 m)

200m	谷口 裕幸 (4)	2 3" 0 7 (+ 1. 0 m)
	阪口 知己 (3)	2 4" 0 3 (- 0. 7 m)
	近藤 寛直 (OB)	2 7" 1 3 (- 0. 7 m)
	伊吹 惇 (3)	2 5" 1 1 (- 1. 5 m)
	村岡 隆幸 (OB)	2 8" 0 0 (+ 0. 7 m)
	辻本 隆宏 (OB)	2 8" 1 6 (+ 0. 7 m)

400m 木村 和史 (4) 5' 4" 15  
松本 和也 (4) 5' 2" 19  
福西 茂樹 (OB) 5' 7" 50  
武田 大輝 (3) 5' 3" 49

800m 武田 大輝 (3) 2' 00" 59  
木村 和史 (4) 2' 02" 62  
赤坂 柁典 (2) 2' 14" 46

1500m 山下 翔平 (2) 4' 29" 91  
赤坂 柁典 (2) 4' 33" 31  
村岡 隆幸 (OB) 4' 52" 15

5000m 木下 健次 (OB) 16' 43" 42  
藤原 英司 (4) 16' 43" 27  
甲木 孝弘 (2) 16' 09" 94  
山下 翔平 (2) 17' 02" 00

走幅跳 二反田 松平 (M1) 6m04 (-0.3m)

走高跳 二反田 松平 (M1) 1m60

砲丸投 船引 規正 (OB) 11m23

円盤投 船引 規正 (OB) 30m76

4×200m 二反田 (M1) -岡本 (OB) -伊吹 (3) -西野 (2) 1' 41" 05

《応援・競技参加して下さったOB・OGの皆様》

田村さん、山口さん、船引さん、村岡さん、福西さん、辻本さん、木下さん、雲財さん、  
近藤さん、岡本さん、黒川さん、西濱さん、二反田さん、松本さん、山田さん

お忙しい中ありがとうございました。

## 第 8 7 回関西学生陸上競技対校選手権大会

5月6日 長居周回  
5月14日、15日 長居競技場  
5月20日、21日 西京極競技場

### ● グランドコンディション

5月6日 晴れ  
5月14日 曇りのち晴れ 18.8℃  
5月15日 晴れ 23.0℃  
5月20日 曇り 27.0℃  
5月21日 晴れ 30.0℃

### 男子100m

谷口 裕幸 (4) 予 11" 15 (-0.2m)

準 11" 03 (+2.0m) ☆ 府大新記録!

阪口 知己 (3) 予 11" 58 (-0.1m) ☆

今シーズンベスト更新を連発し波に乗る阪口(3)と、10秒台&決勝進出を狙う谷口(4)が出場。阪口は奈良県選手権での経験を生かしスタートを改良。なかなかの加速で集団にくらいつく。後半少しばててしまったが、向かい風の中で見事に自己ベストを更新した。谷口はスタートでやや出遅れるものの、中間から加速。余裕の2着で準決勝進出を決めた。準決勝は追い風が吹く中でのスタート。予選同様スタートが少し遅れてしまったが、中間からグングン加速。最後に両足がつってフィニッシュで転倒してしまうアクシデントはあったものの、自身の持つ府大記録を更新した。

文責 中野智典 (2)

## **男子200m**

谷口 裕幸 (4) 予 22" 69 (-1.6m)

準 23" 04 (-2.1m)

自身が去年はケガのため出場できず、雪辱の意味を込めての出場となった。予選は用意の姿勢で警告を受ける。その影響か少し足の筋肉が固まってしまい、やや硬い走りとなっていたが予選通過ラインの3位でフィニッシュ。準決勝はスタートで少しつまずいてしまい、その遅れを取り戻そうと前半飛ばし気味に攻めたが、強い向かい風もあり、記録は伸びなかった。100mで府大記録を更新したため200mの記録更新にも期待がかかる。

文責 中野智典 (2)

## **男子400m**

大継 伸和 (3) 予 50" 02

準 49" 72

決 49" 03 第3位

弓場 大介 (2) 予 52" 62☆

予選1組に出場した大継(3)は200mのところではトップに立つがラストに並ばれ、予選は2位で通過した。タイムはセカンドベスト程であった。弓場(2)は後半若干バテてしまったものの、自己ベストを見事に更新した。後半の課題を克服すればさらなる躍進が期待できる。準決勝は組のレベルが高く、苦戦が予想されたが序盤から積極的に攻め、決勝進出を確定させた辺りから流してゴール。流したにも関わらず49秒台が出せるあたりに成長を感じた。決勝は最後の直線まではほぼ横一線というハイレベルな試合となったが、最後は身長を生かした大きなストライドで見事表彰台を勝ち取った。

文責 小池徳子 (2) 中野智典 (2)



(400を疾走する大繼(3)右)

## **男子800m**

木村 和史 (4) 予 2' 00" 95

武田 大輝 (3) 予 2' 01" 65

3組の武田(3)は前半、積極的に先頭に立ったが、後半になると集団のスピードの切り替えに着いていけず後続にかわされて無念のゴールとなった。5組の木村(4)も前半は積極的なレースを展開するが、後半になるとブランクの影響からか粘り切ることが出来ずに先頭から離されてのゴールとなり、準決勝に進むことは出来なかった。

文責 赤坂柁典 (2)



## **男子1500m**

木村 和史 (4) 予 4' 13" 70

野々口 諒一 (4) 予 4' 08" 31

甲木 孝弘 (2) 予 4' 02" 38☆

決 4' 14" 94 (第12位)

木村(4)は集団の後方から徐々にペースを上げていき、1000m付近で前に出るが順位を守ることはできなかった。甲木(2)は前半からペースを上げ、そのまま終盤もペースを落とすことなく走り切り、ベストを大きく更新し、さらに決勝進出も果たした。野々口(4)はスローペースに我慢できず1200mで前に出るが、後続のラストスパートに着いて行くことができずにゴールとなった。決勝レースでは、甲木は序盤、最後尾から前を伺うが同日の予選の影響で思うようにペースが上がらず、1000m付近から終盤にかけて完全に集団から離されてしまい、ポイントを獲得することが出来なかった。

文責 赤坂柁典 (2)

## **男子5000m**

西濱 大祐 (M1) 16' 04" 46

山下 翔平 (2) 16' 36" 74☆

5000mはタイムレースで1組目に山下(2)が登場。今季は納得のいかないレースが多かったが、今回のレース後半は粘ることができ、ベストを14秒程更新した。2組目には西濱(M1)が登場。昨年この種目で府大記録を作っており、入賞が期待されていた。しかし、怪我や食中毒などの影響であまり練習できなかったこともあり、試合は序盤から最後尾で本来の走りからは遠い結果となった。

文責 甲木孝弘 (2)

## **男子10000m**

北川 拓哉 (3) 33' 13" 90 (14着)

前日の3000mSCでベストを更新していた北川(3)は序盤、第2集団について走る。少し肩の緊張も見られたが3000mを越えたあたりからリラックスした走りになった。気温が高く、給水をとる場面も多く見られた。後半は一人で走ることの多いレースであったが、ラップタイムは安定しており、前日の疲れや、暑さを考えると今後につながる走りとなった。

文責 関岡由希子 (2)

## ハーフマラソン

藤原 英司 (4) 1° 21' 52" (21着)

逢坂 良樹 (4) 1° 30' 22" (25着)

猛暑の中でのレースとなったロードで逢坂(4)は以前からのケガが大きく影響し、序盤から出遅れ、最後尾でレースを展開し、実力を発揮出来なかった。藤原(4)は後方で前を追うが、暑さの影響で思うようにペースが上がらないままのゴールとなった。しかし、2人の気迫ある走りは府大を勢いづけた。

文責 赤坂柁典(2)

## 男子110mH

内賀嶋 陽史 (1) 予 15" 09 (-0.1m)

決 15" 13 (-0.4m) 第5位 4点

内賀嶋(1)は序盤からとばしていき、素早いハードリングで予選は余裕を持ちながら1位通過し、決勝に進出した。決勝では1台目でスピードに乗れず、そこから自分のレースが出来なかったものの5位と健闘した。1回生ながら素晴らしい活躍なので、これからの成長に期待したい。

文責 弓場大介(2)

## 男子400mH

大継 伸和 (3) 予 55" 14

決 54" 78 第5位

予選は身長と、400mを48秒台のスピードを生かして快調にリズムを刻んでいく。最後まで流して余裕のゴール。余力を残して決勝進出を決めたように思えたが、本人いわく、思っていた以上に力を使ってしまっていたらしい。決勝は前日のマイルと予選の疲れもあってか、後半考えていたより伸びず5位でゴール。ハードル技術がまだまだ改善の余地は考えられるため、400m同様さらなる躍進を期待したい。

文責 中野智典(2)

## **男子3000mSC**

北川 拓哉 (2) 9' 29" 43 ☆ 7位入賞

落ち着いてスタートし一番後ろについていたが、中盤になってもペースは落ちず一人ずつペースの落ちていく選手をどんどん拾っていき終盤もそのまま粘り7位入賞という結果になった。自己ベストも20秒近く更新し日々の練習の成果がでたようだ。

文責 山下翔平 (2)

## **男子4×100mR**

大阪府立大学 (阪口 (3) - 谷口 (4) - 中野 (2) - 山中 (2)) 予選 42" 69

決勝 42" 47 第6位

予選では今年もバトン練習が少し足りなくて全員がバトンパスでつまってしまったが、3着でゴールして+4に入って決勝に進出できた。また、決勝ではバトンパスをしっかりと改善して完璧なパスができた。

文責 渡部翔太 (2)

## **男子4×400mR**

大阪府立大学

予選 府大 (中野 (2) - 谷口 (4) - 松本 (4) - 大継 (3)) 3' 19" 34

決勝 府大 (中野 (2) - 大継 (3) - 松本 (4) - 谷口 (4))

3' 18" 14 第6位 府大新!!

予選は終始トップを争い、最後に大継 (3) が流して決勝進出。決勝は松本 (4) が途中で1位に立ち、流れを変えるなど、全員が力を出し切り、見事な府大新記録をたたき出した。

文責 西野駿作 (2)

## **男子走高跳**

木村 慎太郎 (2)	1 m 9 5	第4位
渡部 翔太 (2)	1 m 9 0 ☆	第8位
田中 英和 (1)	2 m 0 0 ☆	第3位

木村 (2) は 1 m 9 5 を跳び、自己ベストには及ばなかったが、後悔はしていないとのこと。渡部 (2) は 1 m 9 0 のベストを跳び、関カレ標準も突破した。田中 (1) は 1 回生ながら 2 m 0 0 を跳び、3 位入賞を果たした。

文責 山中敬雄 (2)

## **男子走幅跳**

新田 真也 (4)	6 m 5 7 (+0. 8 m)
山中 敬雄 (2)	6 m 6 3 (+1. 2 m)

三段跳で右足首を痛めてしまった山中 (2) は当日まで出場できるか危ぶまれた。だが、出場はしたが足首の痛みにより実力を発揮することはできなかった。就職活動後で練習が十分でなかった新田は練習具合に比べて記録がよく、本人は喜んでいて。

文責 渡部翔太 (2)

## **男子三段跳**

山中 敬雄 (2)	1 4 m 6 0 (+0. 7 m) ☆	第2位
矢野 達哉 (1)	1 4 m 2 5 (+0. 1 m)	第6位

三段跳には、山中 (2) と矢野 (1) が出場した。山中の 1 本目は緊張の力みからか踏切で踏ん張ることができずファールとなった。矢野の 1 本目もあまり記録が伸びなかった。しかし、2 本目からは 2 人とも記録を伸ばし 8 傑に残ることができた。矢野は 2 本目の跳躍で 1 4 m 2 5 のデビュー試合にしては素晴らしい記録を出した。山中は 4 本目の跳躍で府大新、自己ベストである 1 4 m 6 0 をたたき出した。

文責 木村慎太郎 (2)

## 男子砲丸投

西野 駿作（2） 決 13m51☆ 2位入賞

日頃から常に練習に精進している西野（2）は、毎週木曜日に体操部の練習に参加し、更なるレベルアップをはかっていたが、関カレの直前、体操の練習中に前歯を折るというアクシデントに見舞われた。前歯を犠牲にしてまでも、臨んだ今回の関カレ。本番当日は緊張しているのか、1本目は、12m台とスロースタートであった。張り切って、大きな雄叫びをあげた2本目、見事に自己ベスト更新。強い思いを抱いて、挑んだ今回の関カレでは、昨年からの順位を一つ上げ、見事2位をとることができた。本人は、この結果に満足しておらず、更なる飛躍を期待させる良い試合であった。

文責 西村実希子（2）



（砲丸投に挑む西野（2））

## 十種競技

二反田 松平（M1） 5314点☆ 8位入賞

100m : 11"62 (728)

好条件のなかであったが、納得のいく結果はでなかったようだ。

走幅跳 : 6m13 (624)

風が強い中、足をあわすことはできたが、あまり記録にはつながらなかった。

**砲丸投** : 9 m 3 1 (4 4 4)

1 投目に 9 m 3 1 を投げた。それがそのまま記録となったが、5 位に入る好記録となった。

**走高跳** : 1 m 6 5 (5 0 4)

助走は良かったが、空中動作で力みによる固さでバーを落としてしまった。

**4 0 0 m** : 5 4" 8 4 (6 0 5)

1 日目の最終種目であるこの競技だが、二反田は快調なスタートで、疲れを感じさせない粘りの走りを見せ、ホームストレートで他の選手を抜かし、2 着でゴールした。

**1 1 0 mH** : 1 6" 6 5 (6 6 1) ☆

スタートからよく走れ、ハードルに引っかかることなく走ることができベストが出た。今シーズンは積極的にハードル練習した結果が実を結んだ。

**円盤投** : 2 7 m 3 1 (4 1 2)

円盤投げは1 回目の試技で 2 7 m 3 1 を投げてこの時点で 2 位につけた。2 回目の試技の際、円盤がラインの外側に落ちてしまったため、ファールとなってしまった。3 回目の試技は成功したが、距離は伸びなかった。そのまま 1 回目の試技の記録で 2 位につけた。

**棒高跳** : 2 m 8 0 (3 0 9)

2 m 8 0 跳んだときは 2 0 c m 余裕があったが、他の競技者と比べて踏切位置が近かったため、2 m 9 0 はすぐにバーにあたって落としてしまった。

**やり投げ** : 4 2 m 1 8 (4 7 4)

4 2 m 1 8 とここでも安定した記録を出し、5 位という高位置についた。

**1 5 0 0 m** : 4' 5 9 (5 6 2)

十種競技のラストを締めくくる 1 5 0 0 m。2 日間の疲れから二反田 (M1) 足は、疲労でパンパンに張っていたが、「過呼吸になってでも走りぬく」と意気込んで挑んだ。前半は、後方を走っていたが、周りがバテるきた後半も、スピードを落とすことなく走り、徐々に順位を上げていった。今回の関カレを締めくくるのに、最高の走りであった。

## **女子 8 0 0 m**

小川 瑠美 (3) 予 2' 2 7" 5 1

周りが飛び出していく中、小川 (3) は前半をおさえがちに走り自分のペースを保った。ラスト 1 周にさしかかると、切り替えて前を走っていた一人を抜く。2 0 0 m を通過した後もスピードを落とすことなく、のびのびとした走りを見せた。ベストには届かなかったが、今日の走りの感覚が今後のレースにつながっていくだろう。

文責 関岡由希子 (2)

## **女子1500m**

関岡 由希子 (2) 予 5' 19" 77 (12着)

関岡(2)は序盤、集団の後方でレースを展開するが集団のスピードについて行けず徐々に離されてしまった。ラスト1周になるとペースを上げ、後続の2人を引き離してフィニッシュしたが決勝に進むことは出来なかった。

文責 赤坂柁典 (2)

## **女子5000m**

大石 真由香 (3) 18' 28" 47

気温29℃、湿度約50%という過酷な状況の中5000mのレースが始まった。最初は集団の後半につくが、2000mを越えたところで前後と差が開き、1人旅を余儀なくされてしまった。そのためか、3000m以降、ペースがガクンと落ちてしまう。しかし、悪条件の中、今季のシーズンベストが出たことは大変評価すべきである。今回のレースでの悔しさが駅伝へとつながることが期待される。

文責 小池徳子 (2)

《応援・競技参加して下さったOB・OGの皆様》

志儀さん、山口さん、木下さん、道家さん、雲財さん、市川さん、上野山さん、黒川さん  
西濱さん、二反田さん、山田さん、松本さん

お忙しい中ありがとうございました。

### 3. その他の試合の結果

#### 第4回学連競技会

100m	谷口 裕幸 (3)	1 1" 49 (-0.6m)
	穂西 俊弥 (2)	1 1" 39 (+1.3m)
	伊吹 惇 (2)	1 2" 01 (+2.2m)
200m	谷口 裕幸 (3)	2 3" 00 (+1.2m)
	阪口 知己 (2)	2 3" 99 (-1.4m)
	中田 洸樹 (2)	2 2" 39 (+0.0m)
400m	大継 伸和 (2)	5 0" 02
	中野 智典 (1)	5 2" 29
800m	木村 和史 (3)	2' 04" 90
	武田 大輝 (2)	2' 03" 71
	赤坂 柁典 (1)	2' 13" 40
	甲木 孝弘 (1)	2' 02" 57
1500m	木村 和史 (3)	4' 28" 27
	野々口 諒一 (3)	4' 15" 74
	山本 裕章 (3)	4' 56" 74
	甲木 孝弘 (1)	4' 10" 27
5000m	藤原 英司 (3)	16' 53" 12
10000m	西濱 大祐 (4)	32' 45" 68
	北川 拓哉 (2)	32' 42" 33
	山下 翔平 (1)	36' 13" 44
110mH	二反田 松平 (4)	17" 93 (-1.8m)



走幅跳            二反田 松平 (4) 6 m 2 3 (+1. 2 m)  
                  谷口 裕幸 (3)  6 m 5 8 (+4. 1 m)  
                  山中 敬雄 (1)  6 m 5 9 (+1. 2 m)

走高跳            渡部 翔太 (1)  NM

○ 女子

8 0 0 m            小川 瑠美 (2)  2' 2 7" 7 2  
                  関岡 由希子 (1) 2' 3 7" 1 9

1 5 0 0 m        大石 真由香 (2) 5' 0 9" 4 7  
                  小川 瑠美 (2)  5' 1 0" 5 0  
                  関岡 由希子 (1) 5' 3 7" 8 3

3 0 0 0 m        大石 真由香 (2) 1 1' 0 5" 0 1

5 0 0 0 m        小池 徳子 (1)  2 1' 2 6" 2 2  
                  西村 実希子 (1) 2 0' 2 2" 5 5

第1回尼崎ナイター記録会

1 0 0 m            中野 智典 (2)  1 1" 2 4 (-2. 3 m)  
                  伊吹 惇 (3)   1 1" 7 8 (-0. 1 m)  
2 0 0 m            中野 智典 (2)  2 2" 4 1 (+0. 4 m)  
                  松本 和也 (4)  2 3" 0 4 (+0. 0 m)

## 4. 今後の目標と反省

### 短距離パート

短距離ブロックでは各自が自己ベストを目指すこと、そしてチームとしてのレベルも上げ関西インカレで15得点をあげることを最大の目標にやってきました。三大戦ではかつてないほど三大学の力が拮抗しており、白熱した戦いになりました。400mでは大継(3)が自己ベストを大幅に更新し、リレーでは優勝することができました。関西インカレではほとんどの選手が自己ベストを出し、4×100mR、4×400mRで入賞するなど快進撃でした。今までやってきたことの成果が現れてよかったと思います。しかし、春先に調子があがらなかった選手、残念ながら選考にもれ出られなかった選手もいます。新1回生とともに切磋琢磨し、首都大や学年別ではさらに成長した短距離パートを見せられればと思います。

文責 短距離パート長 中田洸樹 (3)

### 中距離パート

大阪IC、大阪三大戦、関西ICと、1年の中でも主要な大会が集まった4～5月でしたが、中距離パートでは自己記録を更新した選手も少なく、また関西ICでは唯一得点を稼いだ選手がいなく、非常にふがいない結果となってしまいました。また、これらの大会では現4回生が主力となっていますが、これからの中距離パート全体のレベルアップのためには、現2・3回生が中心となってパートを引っ張っていく必要があると感じました。首都大戦以降はびわ湖駅伝のために駅伝パートに合流することになりますが、自己ベストの更新・首都大戦での勝利を目指して練習を積んでいきたいと思っています。これからも応援よろしくお願いします。

文責 中距離パート長 武田大輝 (3)

## 長距離パート

トラックシーズンが始まり、3つの大きな大会がありました。大阪インカレでは、先頭のスピードについていけず途中でバテる選手が多く、ほぼ全員が自己ベストとは程遠い結果となってしまいました。三大戦の5000mでは、西濱（M1）が3位、北川（3）が5位と、阪大には惨敗。市大とは同点という結果でした。今回の3大戦は、各大学のレベルが上がり、14分台が出るなど史上最速のレースとなりました。活躍した選手は2回生が多く、来年はさらにハイレベルな戦いになりそうです。5月に行われた、関西インカレでは、自己ベストを更新する選手が多数出ました。5000mに出場した西濱、ハーフマラソンに出場した逢坂（4）が怪我で練習が積めなかったため、入賞は北川1人となってしまいました。多くの選手が入賞を狙えるようになってきたように思えます。

3～5月は合同練習を多数行いました。市大、和、大、さらに阪大とも合同練習しました。いつもと違うメンバーでの練習ということで、いい緊張感で刺激し合って走ることができたと思います。また、今年は10000mに慣れるために、10000mのレースに出場するよう促してきました。学連記録会、大阪インカレ、関西インカレにも多数選手が出場しました。6月末には阪大、京大と合同で10000T.Tも行いました。琵琶湖駅伝予選会突破に向けて切磋琢磨したいと思います。

関西インカレが終わり、次の目標は首都大戦に勝利することです。去年の悔しさをバネにして練習に励み、頑張りたいと思いますので、今後ともご声援よろしくお願いたします。

文責 長距離パート長 北川拓哉（3）

## フィールドパート

シーズン初戦である大阪インカレでは自己ベストを出す選手や関西インカレ標準を突破する選手がおり好スタートをきれました。三大戦ではフィールド得点は1位ということもあり、選手達みんなの力がついてきたのがわかります。関西インカレでは砲丸投で西野（2）が2位、三段跳で山中（2）が2位、矢野（1）が6位。走高跳では田中（1）が3位、木村（2）が4位、渡部（2）が8位をとり、フィールドの部で4位となりました。出場した選手みんなが好記録をマークし、冬季練習の成果がみられました。今年は頼もしい1回生が多数入部してきたので、更なる向上を目指して練習に取り組んでいきたいと思えます。応援のほうよろしくお願いたします。

文責 フィールドパート長 山中敬雄（2）

この度、第1回OB通信の作成がたいへん遅れてしまい申し訳ございません。